

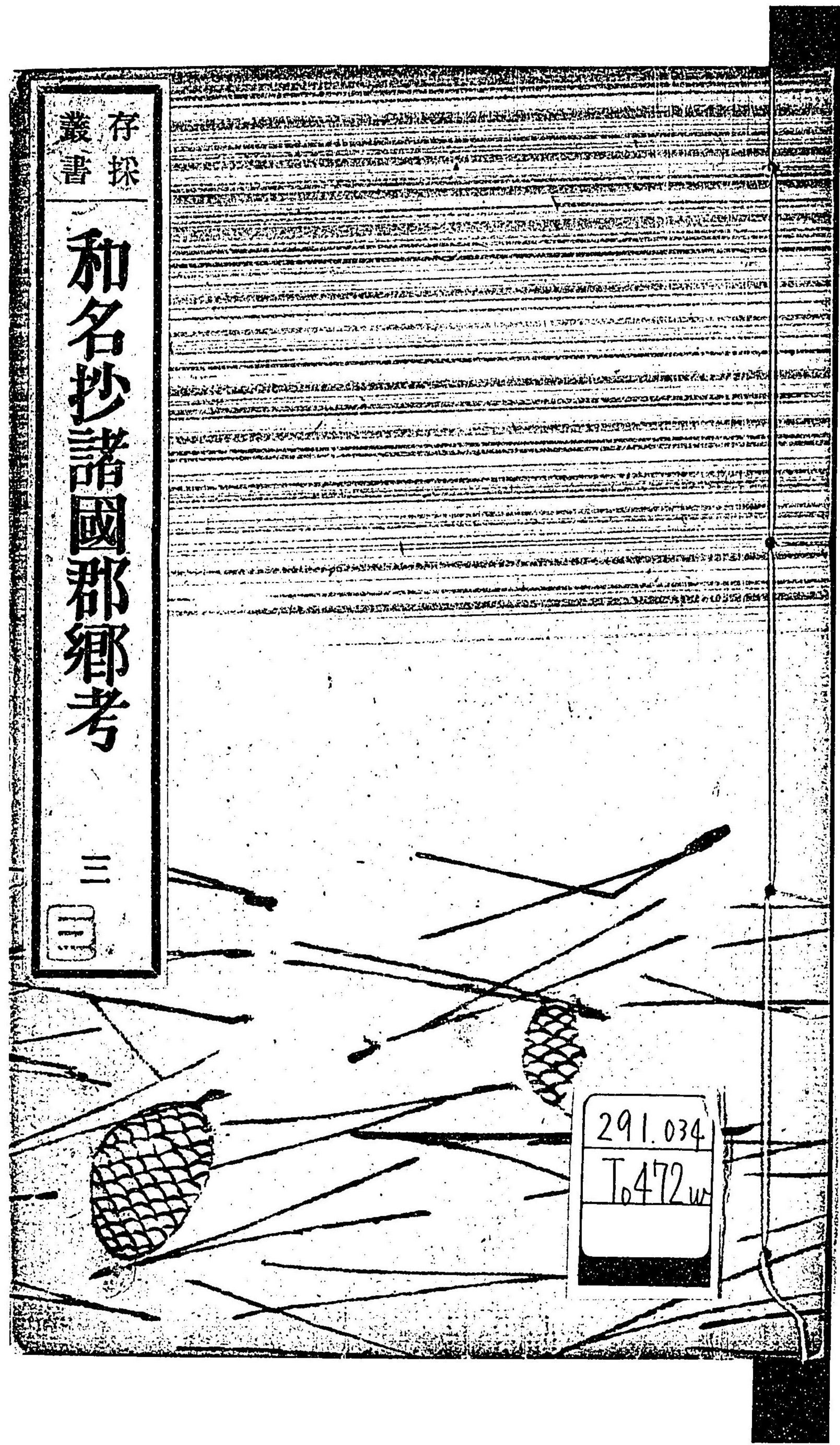
存採
叢書

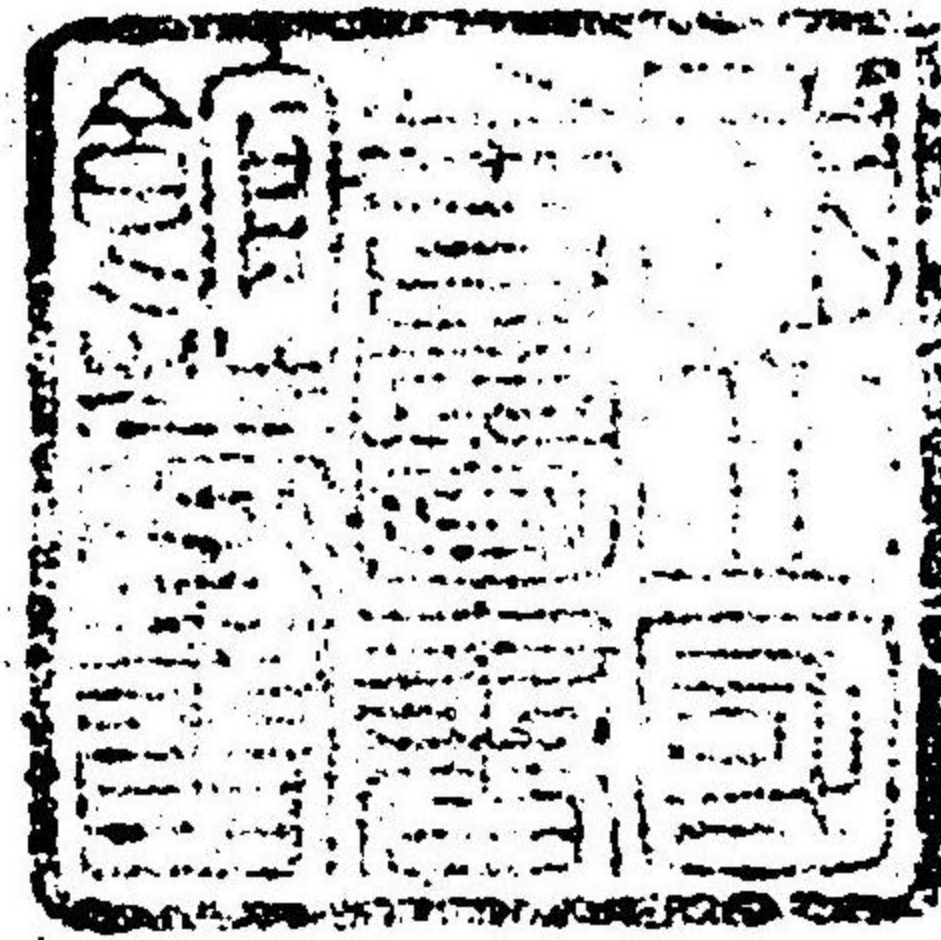
和名抄諸國郡鄉考

三



291.034
T.0472w





338311

和名抄諸國郡郷考卷四

東海道

今按民部省圖帳東海道に屬たるゆゑの名

美知また字倍都道と訓り西宮記なるアチのアハミなり道の義也北山抄なる宇女都のメはミベノ約にて海邊都道の義なり字倍都のウハウミの略にてこれも同義なり

伊賀以加國

古事記傳伊賀國風土記に猿田彦神女吾娥津媛命云云此神之依知守國謂吾娥之郡後改伊賀吾娥之音轉

也と云り伊賀郡に阿我郷もあり今思ふに若くは此吾娥津媛を猿田彦神の女と語り傳へたる故實ハ伊賀日女命の降住坐しを云るにハ非ざるかこのせめてたこるをよみふのみなり○延長風土記伊賀國者往昔屬伊勢國大日本根子彦太瓊天皇御宇癸酉分而爲伊賀



越後

富永春部纂述

男津清校

三野氏

國本此號者伊賀津姬之所領之郡也仍爲郡名亦爲國名○國造本紀伊賀國造難波朝御世隸伊勢國飛鳥朝割置如故○倭姬命世記伊賀國天武天皇庚辰歲七月割伊勢國四郡立彼國云云○今按風土記に據れり開化天皇御代に置れたり國造本紀倭姬世記等に據れり天武天皇御代に置れたり恐くハ風土記の才た誤りなるへし 國府在阿拜郡行程上一日下一日 主計式管

四 田四千五十一町一段四十一步正公各十三萬五千束本稻三十二萬

七千束雜稻四萬七千束 拾芥抄田四千五十五 阿拜安部○國府 風土記 町○主計式正公全 中郡也

往昔阿牟忌寸死此有墳仍有此號東限佐與川西限極淵北限篠嶽南限岸村○殘篇風土記阿部山阿部川○天武紀元年九月戊戌車駕宿阿閉○三代實錄貞觀六年十月伊賀國正六位上安部神伊賀津彥神授從五位下又云從五位上敢國津大社神○神名式阿拜郡敢國神社○倭姬世記にも敢とあり今アユと云○勢州軍記伊州綾郡河合有綾杉之名木信雄之埜結城源五右衛門尉誤斬其木云云○今俗にハアヤ郡ともアハイ郡と 山田也末太 風土記下郡也東限余保川西限阿野南限菟塚北も云なり 限澤田神社日本磐余彥天皇御宇藥史道守之所

知也其時屬伊勢國郡名也後爲郡山田山在郡東南○源平盛衰記(十五)平家滅亡之後兵衛佐殿律淨房カコトヲ三井寺へ尋給ケルコト治承之比高倉宮ノ御伴申シテ光明山之鳥居之邊ニテ打死也ト申タリケレハ其人ナケレバトテ兼テ存セシコトイカテカムナシナルベキトテ伊賀國山田郷ヲ三井寺へ寄ラレテ律淨坊カ孝養報恩無退轉トソ聞ユル云云○今按山田郷ハ山田郡ナルベシ但京城萬壽禪寺記伊賀山田庄院田とあれば郡中に山田庄もありし歟○國圖山田郡山田町○伊水溫故山田町ハ郡ノ府ナリ昔筒井順慶從士善尾半三郎住居セリ伊賀與國同 自鑑世記阿我中村ト云處コトイハ勢國司幕下ノ者トモ云なれば後世までも古名を郷名に存して則伊賀郡の内にあるか○風土記中郡也東限澤墳西限高師川北限橫川南限豐國以國名爲郡名○神宮雜事紀垂仁天皇二十五年天照坐皇大神云云伊賀郡ニ宿御坐即國造奉神戶云云○勢州軍記一云西方伊賀國四郡者仁木家之領地也雖然名張伊賀名張奈波利 天武紀元年六月隱郡又隱驛家○三代實錄郡之侍口從之 貞觀五年五月伊賀國名張郡○伊賀考天正伊亂記名張中村ノ住士中村半六井上某彼等先祖太平記ニ載タル名張八郎カ子孫ニテ云云○倭姬世記伊賀國隱ノ市守官○風土記下之

中郡也東限早雄川西限糸川南限中山北限角野神日本磐余彦天皇御
宇宗見間人之所知也其時屬伊勢國當郡初在鄉名也號其名張鄉者宗
見間人知之幾三月計不納其年貢仍而名計者知此鄉
云聲之轉也是名張鄉之名基也土地富饒而民用多也

阿拜郡

枯殖 風土記枯殖里中肥也○和訓栞栞殖なり天武紀積殖山口とみゆ
枯殖に作る誤なり風土記に栞殖の天照太神遷坐之假殿也と
みゆ倭姫世記に敢津美惠宮に作る神名式に敢國神社とあり敢の即
ち阿拜郡なり○京城萬壽禪寺記伊賀栞殖庄○大安寺資財帳伊賀國
阿拜郡栞植原又伊賀國阿拜郡栞植庄○内宮儀式帳阿閉栞植宮○天
正伊亂記栞植ノ一族ハ池大納言從士彌平兵衛宗清栞植里ニ住居ス
其末流ナリ○源平盛衰記四十一栞植郷與野又伊賀路ニ懸テ責上リ
ケル角テ山路ヲ出ヌレバ栞植里モ打過テ當國一ノ宮南宮大菩薩ノ
御前ヲハ心計ニ再拜メ云云○國圖栞植村上下アリ○今ツケト云○
殘篇風土記栞殖山栞殖里○行囊抄上栞植中栞植村野村下栞植邑○
穗井田忠友觀古雜帖所載東大寺新造舍文庫所藏田券栞殖郷長解云
云忠友云栞殖郷ハ和名抄ニ拓テ誤テ枯ニ作り訓注ナシ倭姫世記ニ

敢ノ都美惠宮トアル是ナリ和名鈔木類ニ栞(豆美)アリ惠(カ)風土記
ハ宇惠ノ畧ナリ音便メ今ハ都介ト云殖字モ植ヲ用フ 川合(カ)風土記
有神號藪田大明神○國圖川合村 印代(カ)風土記印代里下肥也○國圖印
○京城萬壽禪寺記伊賀川合庄 印代(カ)風土記印代里下肥也○國圖印
云國人云今稻代と書イシロと訓む○行囊抄井代村佐奈具ヨリ上野
ニ至道アリ○地勢提要印代村○穗井田忠友云印代村當郡佐那具驛
ノ西ニ接ナリ和名抄ニモ載タレト訓注ナシ神名式ニ按スルハ服部風
ニ近江國栗本郡印岐志呂神社アリ音相近シ隣國ノ類名ナリ 服部土
記服部里中肥也有神號小宮大明神并扶伯大明神共服部氏祖之所祭
也○神名式阿拜郡小宮神社伊賀考阿拜郡小宮神ハ服部大宮是也正
二位服部氏惣社也號二宮○應仁記今出川殿勢州下向ノ條ニ五月廿
五日夜伊賀ノ服部荒木ノ菩提寺ニ御着云云○藤川記服部川をわた
りて菩提寺にいたる○行囊抄服部村此邊ヨリ上野城ノ檜松ノ中ニ
ミユ○貝原氏和事始伊賀の八鳥と書リ○青澗茶話茶品彙といふ條
に服部(伊賀産)とありこゝより出るなるへし○異制庭訓茶ニ田國圖
の事をいへる件に伊賀八鳥とあり今もハットリと云ふ 三田國圖
村○國人云今新居驛續紀和銅四年正月始置都亭驛伊賀國阿閉郡新家
ハ見田と書く 新居驛○今按新居新家共ニ訓コヒノミナリ讚岐國阿

野郡新居ハ爾比乃美ト訓リ此訓正シ○伊賀志訓爾位能味○伊水温故新居ノ邊川原ハ東村(或ハ東居村ト云)ノ川端ヲ云此里昔ハ新居村ト云ニヨリ村南ノ川端ヲカシク盛衰記義經木曾退治ニ此道ヲ通ルトイヘリ又新居山妙覺寺ト云モ見ユ又新居ヲ東村西村分テ兩郷トセリ○盛衰記當國一ノ宮大菩薩ノ御前ヲ心計ニ再拜メ暫新居川原ニ磬ヘタリ西ニ平岡アリ九郎義經里人ヲ招キテ是ヨリ宇治山城ヘ向ハシニ何地カ道ハヨキト問給ヘハ西ニ見エ候平岡ヲハアヤマト申其ヨリ前ニ頭落ト云所ヲ通ニハ近ク候ト申ス○伊賀考姓氏部ニ新居ノ一族ハ佐々木三郎盛綱ノ末流ナリ

山田郡

木代コシロ靈異記伊賀國山田郡瞰代里といふありこ、カ掖齋考證云今山田郡有喰代郷喰代村○神風抄喰代御厨○風土記木代山在郡之東南○伊水温故風土記木代山和名抄ニ木代郷アリ此山此郷今世ニ知ハナシ又喰代郷ハ喰代高山蓮池○伊賀考喰代村ハ元木代ト云此處元木代山ト云アリ喰川カハラ風土記土地度亡有旱水之患也○關藤川代ハ今ホオチロト呼

のさかひなり河原の木百さなから泉水なとをみるまとなれば(苦むせる岩根に松はおはかはらさはらさりけり庭のすさみに○東遊行囊抄大河原自嶋ヶ原至于此上)竹原タケハラ風土記土地富饒而修竹多焉○野領南河原川ヨリ南ノ岸ニアリ竹原伊水温故山田郡薬師寺風凰寺村ニアリ舊號ハ竹原村ト云ニシ

伊賀郡

阿保アホ續紀天平十年十月伊賀郡安保頼宮○又延暦三年十一月武藏介建部朝臣人上等言臣等始祖息速別皇子就伊賀國阿保村居焉○姓氏錄右京皇別下阿保朝臣垂仁天皇皇子息速別命之後也息速別命幼弱之時天皇爲皇子築宮室於伊賀國阿保村以爲封邑子孫因家之允恭天皇御代以居地名賜阿保君姓○神鳳抄伊賀國阿保神田○末社記伊賀國阿保庄○神宮雜例集阿保神田○菅笠日記村道の左に中山といふ山のいとほいとあやし河つらの伊賀の中山なか、にまれの過うき岸の岩むらかくいふのふこえし阿保山より出る阿保川のほとりなり朝川わたりて岡田別府なといふ里を過て左にちかく阿保の大森明神と申す神おはしますすハ或伊賀郡大村神社なとをわ

やまりてかく申にわらしや猶川にそひつゝゆきゆきて阿我風
 保の宿の入口にて又わたると云云伊勢路より此驛迄一里也阿我土
 記阿我川といふもあり○伊水温故伊賀郡阿我ハ准后記ニ阿我郷五
 保トハ上神戸下神戸上林丸山子等ナリコレ今云阿我山ナルヘシ但
 シ子等ヲ除テ比自岐川ヲ入テ五保ト云カ丸山ヲ除シカトモ
 云ヘリ○伊賀名所記ニ阿我ノ觀音堂ハ玄賓僧都ノ開基也 神戸風
 記神戸山アリ御間城入彦五十瓊殖天皇六十六年天照太神座跡也○
 國圖神戸村○伊賀記神戸郷○神宮諸雜事記垂仁天皇御宇皇太神宮
 勅詔宣傳我天宮御宇之時天下四方國攝錄可天下宮所放光明見定置
 先畢仍彼所可行幸御之由宣倭姫内親王奉戴天先伊賀國伊賀郡一宿
 御坐即國造奉其神戶同記長元四年五月伊賀守從五位下朝臣光清被
 配流伊豆國發彼神戶御酒田一町蒞取了因之云云○神宮雜例集伊賀
 神○國人云今上中下家三百計○猪田殘編風土記猪田里猪田川○國
 止由氣太神宮儀式帳伊賀國神戶猪田圖猪田村○東大寺天養元年文
 書猪田郷オチ大内風土記大内里中肥也○伊賀記大内郷十五保○神風抄
 コカ野村 大内伊賀郡大内御園○伊賀考天喜中古按ニ大内郡安佐小
 田村アリト云リ○伊水温故大内下庄ハ隣郡阿拜郡ニ見ユ大内上庄
 ハ當郡ニ見ユ又天神宮ハ大内□□兩郷ノ宮也大内村大内社ト記ニ

名張郡

見エタリト云リ○東鑑信濃國住人大内太郎維義領當國信長
 州大内郷產生依之維義住居ノ地比々岐村ヲ大内ト改ム 長田風土
 田里上田也長田河と云もあり○東鑑壽永三年四月長田庄○殘編風
 土記長田山長田川○神風抄長田○國圖長田御厨○又長田村ハ國圖
 及伊水温故隣郡阿拜郡ニアリ○盛衰記又道ハナキカト問給ハ是
 ニリ長田里花苑ト云所ヲ廻リテ射手大明神ノ御前ヲ笠置ニ懸リテ
 モ道ノヨソ候ト申ス○行囊抄長田村自此邊左ノ山ノ方
 ニ安樂院ト云寺アリ○京城萬壽禪寺記伊賀長田庄院田

周知神名式阿拜郡須智荒木神社○風土記荒木山有神號須智明神所
 祭猿田彦武内宿禰高城襲津彦也○周智山周智郷○風土記地富
 饒而民用多也○國人云今此文 名張奈波利 伊水温故名張町舊名築
 を書てヒナナト唱ふる村あり 瀬ト云築瀬城築瀬驛ハ
 慶長ノ始羽柴伊賀守カ與力松倉豊後守重政八千石ヲ領シ當城ニ居
 住ス又名張寺ハ今處不詳准后記ニモ見ユタリト○行囊抄大坂ヨリ
 諸方城下道程伊賀之名張九十九里和泉守家司藤堂宮内在所○菅笠
 日記阿保よりハ三里とかや町中に此わたりしる藤堂何かしぬしの

家ありその門の前をすきて町屋のはつれに川のなかれあふ所に板橋を二つわたせりなばり川やなせ川とろいふいにしへなばりの横川といひけんハツミ夏身ハツミ風土記土地肥而民用不貧也又夏身山○二十二年ハツミこれなりかしハツミ社注式人皇四十八代稱德天皇神護景雲元年六月廿一日伊賀國名張郡夏身郷一瀬河御沐浴以鞭爲驗立給成樹生付云云○春日社記夏身○國圖夏身村○國人云今夏身と書す

伊勢以世國式大國府在鈴鹿郡行程上四日下二日行程主計式同○續紀天平勝寶四年十月

月伊世國○國造管十三田萬八千二百四十五步正公

各四十萬束本稻八十八萬千束雜稻八萬十束拾芥抄田萬九千二十四町○主稅式正公三十萬

東桑名久波奈天武紀元年六月高市皇子遣使於桑名郡家九月天皇續于桑名郡家○風土記當郡東西拾二里南北九里河海多

而少山林五穀多而民戶富盛雜魚多陽風土記當郡東西七里南北八里河海多員辨爲奈倍

而山林出樹木神戶十八座土地富饒也但不出大竹魚鳥禽獸不少○續紀神護景雲三年五月伊勢國員辨郡人猪名部丈丸○後紀天長五年十一月伊勢國員辨郡空閑地一百町爲勅旨田○東鑑元久元年

二月伊勢國員辨郡司進士行綱爲囚人被召置依義盛之訴也朝明阿左

介天武紀元年六月丙戌且於朝明郡述太川邊望拜天照太

集九吾疊三重之河原之○古事記日本武尊自某地幸到三重村之時詔

云吾足如三重勾而甚疲故號其處謂三重○天武紀元年六月三重郡○

東鑑伊勢國道前郡○神宮雜例集員辨三重朝河曲加波和天武紀元年六月三輪君

明を道前三郡とし神三郡を道後といへり河曲加波和天武紀元年

子首等且發五百軍塞鈴鹿山道到河曲坂下○兵部鈴鹿須々加○國府

式河曲傳馬五疋○拾芥抄カハワカハマ兩訓鈴鹿須々加○國府

天武紀元年九月丙申車駕宿桑名丁酉宿鈴鹿○續紀天平奄藝阿武義

拾芥抄奄治に作る今安藝と書り○散木奇歌集伊勢に侍りける頃みやこのかたより去りたる人のもとへ扇にうへておくりて侍りけるかどもせてこゆるハゑるし鈴鹿山ふりすて、ける我身なりと返しか

の扇のこぼりにあり今按
 扇の郡の奄藝の郡なり
安濃安乃 風土記或阿乃或晏野東限建部浦
 西限長野嶽南限岨田川北限狹屋
 社○倭姫世記草蔭乃安濃國○神風抄安東郡安西郡○故老口實傳安
 濃東西郡○風土記安濃津仁德天皇三年定三津其一也東方之蠻船本
 邦公私之船湊入之船各來于此待真風實舉國之名湊也○竹内直躬東
 海道記津之驛に宿るこは驚名あの津なるをいつのあろよりか津
 とのみいひ來りけん安濃松原安濃湊田等たひの地震に沈没
 して其名のみこれりあこぎの浦もあのわたりならめと知ものな
 し○節用集安濃 **壹志伊知之** 拾芥抄今飯町或壹志とあり○續後紀承
 アコキと訓めり **和三年七月壹志郡空閑地**○治承元年公
 卿勅使記 **飯高伊比多加** 兵部式飯高驛馬八疋○大神宮儀式峽忍飯高
 一志驛 **飯高國止白而進神** 多氣竹 神名秘書引風土
 汝國名何問賜白久意須比飯高國止白而進神 **多氣竹** 記曰難波長柄豐
 田并神戶倭姫命飯高志止白事貫止說賜支 **多氣竹** 記曰難波長柄豐
 崎宮御宇天皇丙午伊勢多氣郡竹連磯真建此郡○類字名所集竹川○
 拾遺ももち葉のなかるゝとき竹河の淵のみとりもいろかはるら
 ん契沖云此歌躬恒集に延喜十七年に伊勢齋宮の御れうの御屏風の
 歌なり前後伊勢の名所をよめる中にあれば多氣郡にある故に竹川

といふな **飯野伊比乃** 度會和多良比 兵部式度會驛馬八疋○神名秘
 るへし **飯野伊比乃** 度會和多良比 書度會郡者大國玉神奉迎之時
 以梓弓爲橋而度焉愛大國玉神佐々良比賣參來迎相土橋鄉或云繼橋
 鄉岡本村自余度會焉因爲名也○續紀文武天皇二年十二月遷多氣
 太神宮于度會郡○風土記夫所以號度會郡者畝傍檜原宮御宇神倭磐
 余彦天皇詔天日別命 國之時云々大國玉神遣使奉迎天日別命因
 令造其橋不堪造畢于時令以梓弓爲橋而度焉愛大國玉神 資彌豆佐
 々良比賣命參來迎相土橋鄉岡本村云々度會焉因爲名也○古事記
 傳大國玉神とあるハ伊勢國玉神にて神名式に度會郡に大國玉比賣
 神社とある是なり然るを神宮の書とも大己貴命なりとするハ名
 によりて混ひたる誤也凡て國玉神と云ハ國々にあるを當國にて尊
 みて大國玉と申すなり土橋郷ハ和名に繼橋とある是なり岡本村ハ
 今も山田の坊名によふ處なり○和訓栞伊勢風土記に號度會郡者川
 名而已とみゆ夫木集にわたりあひ川とよめるハ即度會川なりりあ
 の反らなり度會川延喜式にみゆ○釋日本紀二神郡度會多氣兩郡也
 ○行囊抄度會郡東ハ志摩國ヲ堺南ハ紀伊國ヲ限リ西ハ宮川ニソヒ
 テ南北ニ横ハリテ長シ
 北ハ大湊ノ海岸ヲ限

桑名郡

野代乃之呂 勢陽雜記野代村桑名より乾行程一里神名帳野志里神社
 と有 天照太神垂仁天皇十四年秋九月尾張國中嶋の宮よ
 り伊勢國桑名の野代宮に遷幸し奉り次に鈴鹿の奈久波志忍山に幸
 し給ふ○内宮儀式帳及倭姫世記ニ桑名野代宮○度會元長百首和歌
 董菜すみれかふ野代のみやのわた 桑名久波奈 神名式桑名神社○今
 りとてつひ人なしにすくる春かな 北大社村に有といへ
 り○内宮儀式帳桑名神戶六東○勢陽雜記今 額田沼加多 神名式額田
 も桑名村あり○武鑑伊勢國桑名郡桑名城 額田沼加多 神名式額田
 雜記今棟 尾津手都 神名式尾津神社○勢陽雜記今尾津といふ所なし
 田村あり 尾津といふ所ありこれなるへし又尾津神社ハ今
 八劍の宮とて溝野といふ所にあるハ即尾津神社なるへし戸津と溝
 野も並へり昔倭建命東征時至尾津忘御劍矣凱旋後劍不失在焉憐之
 有詠歌爾後崩御載在日本紀然則八劍宮祭尊與御劍歟○古事記景行
 段に尾津前又歌ニ袁都能佐岐○景行紀四十年夏六月尾津又尾津濱
 熊口久末久知 今駒江村といふ
 かこれなりとぞ

員辨郡

野摩也末 大安寺資財帳員辨郡宿野原伍佰町 笠間加佐萬 勢陽雜記今
 四至東鴨社南坂河西山北丹生川 勢陽雜記今
 いふあり○神風抄笠間郷荒 石加以之加 神風抄員辨郡石河御厨トア
 祭宮神田又笠間郷司職田 久米 神風抄員辨郡久米郷外宮神
 トノミ云 美耶三也 神風抄員辨 久米 神風抄員辨郡久米郷外宮神
 例アリ 郡宮村御園 田同郷用永又久米郷司職田

朝明郡

田光多比加 神名式多比鹿神社○勢陽雜記朝明郡のうち田光村あり
 切畑村より江川政所村へ山越三里田光越といひまた八
 風越とも云とろ○多氣窓強昔伊勢武者ニ田光隼則ト云ハ彼一條院
 ノ時キレモノ年則カコトナリ朝明一郡ノ主ナレハ人モ敬ヌ云々
 杖部鉢世都加倍 節用集杖部○上田百樹云姓氏録山城國神別丈部ハ
 鴨縣主同祖建津身之命後也トアリ按ニ走使部ノ義
 ナル 額田沼加多 神宮雜例集朝明郡額田神田○御領目錄額田納所ト
 ヘシ 額田沼加多 アルコレ也○神風抄員辨郡ニモ額田神田ト云アリ

大金於保加禰 勢陽雜記大鐘西大鐘村といふあり○今 豐田止與多 東

文治三年三月豊田庄 訓霸久留倍 今按節用集訓霸と書たるハ誤安藝

○勢陽雜記今もあり 國郷名に訓覓といふあり又節用集

に九足八鳥と書てロシロミと訓たるハいかにこゝなどをいへるに

ハわらぬにや壹志郡なる吳部とおなし意なりけんをまか書たかへ

たるにはわらぬか猶考べし○上田百樹云安藝國豊田郡訓芳郷アリ

ッルハと訓まむか是同例也○神風抄員辨郡ニ留米御厨アルハモト

久留米ノ脱字ニテ訓霸 同地ニハアテサルカ

三重郡 采女字禰倍 古事記雄略段伊勢國三重採女御厨○大安寺資財帳伊勢國三重

重采女ありこれろの采女の出し所なり○勢陽雜記采女村 河後加榮

といふあり○東海道名所圖會采女村杖つき坂の東にあり 河後加榮

之利 神風抄三重郡河後郷二宮 葦田安之美多 勢陽雜記今吉田郷とよ

方神田○今も河尻村あり 柴田之波多 今柴田村アリ芝田トモ書ク○神風抄三重

社○神風抄三重郡足見田神 郡柴田郷弘永名○朝野群載康和五年六月

三重郡司柴田郡專當云々 刑部於佐加倍 舊事景行紀五十功彦命伊勢

○下ノ郡ノ字ハ郷ノ誤カ 刑部君三川三保君祖○節用

集刑部○勢陽雜記刑部郷に東坂部西 坂部村あり○神風抄三重郡坂部御厨

河曲郡 神戶 內宮儀式帳河曲神戶六東○神宮雜事記治曆三年十二月河曲神

戸預大鹿武則○勢州四家記河曲郡神戶○神宮雜例集伊勢國百

五十二戸六處とあるうちに河曲神 驛家 兵部式 中跡奈加止 神名式奈

戸三十八戸○今神戶と云城下あり 海部阿末 應神紀五年八

村とあり神戶より良方二十丁ありといへり 月令諸國定海

人及山守部○古事記定海部山守部伊勢部○萬葉集七伊勢海之白水

郎之嶋津我腹玉○上田百樹云今隣郡朝明郡ニ天加須賀村アリ或本

天少須加又天賀須加トモ書タリ此即海部之須川部 賀美加美 勢陽

加歟須加ハ洲處ノ義ニテ海邊ニアル地名也 雜記

上笑田中笑山下笑田村○今按笑田の下のなる深田の轉りたるにて上中下の深田の上中下なるべし 資母之毛 深田布加多 神名式深田神社○今の中笑田なるべし○神鳳抄笑田安田御厨

鈴鹿郡

英多加多 神名式縣神社○姓氏錄縣主日本武尊之後○異本村名帳鈴鹿郡縣村○古谷盛長云縣村ハ今ノ川崎村ナリ 高

宮多加美也 東海道名所圖會同國庄野より石薬師の間十町計東高宮村なり爰に日本武尊陵白鳥塚あり土俗鶴塚とよふ此は

とり能獲野として書紀に見えたる處也 長世奈加世 神名式長瀬神社○赤松記伊勢國高宮上月記も同じ 勢陽雜記名越また

名串ありこのうちなるべし○今長瀬郷長澤村あり○熱川縁起日本武尊渡鈴鹿中瀬隨逝水時年三十仍號其瀬曰能知瀬云云今改爲長瀬

誤 鈴鹿須々加 兵部式鈴鹿驛馬二十疋○名所圖會鈴鹿山在伊勢近江也 關を置れたり關市令拾芥抄等に見ゆ三關の一也海道の左に鈴鹿

川なかれ又右に流れて幾瀬もあるゆゑに八十瀬川ともいへり 枚

田比良多 續後紀承和十三年伊勢國鈴鹿郡枚田郷戸主川俣縣造 藤繼女○神鳳抄鈴鹿郡平田御園○勢陽雜記平田村 神戶

今神戶郷野尻村落針村あり○内宮儀式帳川俣縣造祖大比古命云々 神田並神戶又鈴鹿神戶六束○神宮雜例集伊勢國百五十戸六處とあ

るうちに鈴鹿神戶十戸○驛家 勢陽雜記關川の南に古馬屋村といふ 太神宮參詣記鈴鹿の神戶 あり是なるべし○今按す、かの驛と

云いこゝ也○兵部式鈴鹿驛 ○治承元年公卿勅使記關驛

奄藝郡

奄藝安無木 田井多井 神名式多爲神社○勢陽雜 鹽屋之保也 上田百 記山田井村といふあり 樹云今

稻生村ノ中ニ鹽屋村アリ又今阿濃津ノ部田村ノ浦邊ニ鹽屋 服部八 ト云フ字アリテ凡千石計ノ地ナリトイヘリ○姓氏錄鹽屋連

止利 神名式服織神社○雄略紀十年正月吳所獻手 黒田久呂多 東鑑文 末才岐漢織吳織及衣縫是伊勢衣縫之先也 治三年

三月黒田庄○神鳳抄北黒田御厨南黒 窪田久保多 行囊抄關ノ追分ニ 田御厨○勢陽雜記南黒田村北黒田村 窪田久保多 行囊抄關ノ追分ニ

椋本至于此阿濃津領○今窪田郷アリ久保田トモ書○神風抄奄藝郡窪田御厨○東鑑文治三年三月窪田○勢陽雜記窪田村○真言宗光明山安養寺の縁起に窪田之庄神宮院

安濃郡

建部太介無倍 風土記或竹戸公穀四百六十三束二字六毛田假粟二百三十九畝田半園山○今按出雲風土記宇夜里後改所以號健部者繼向檜代宮御宇天皇勅不忘朕御子倭健命之御名健部定給爾時神門臣古禰健部定給即健部臣等自古至今猶居此處故云健部とありてこゝも同じゆゑよしにてつきけん名なるべし○舊事紀物部竺志連公阿努建部君祖○殘編風土記安濃郡東隈建部浦○神風抄安西郡建部御厨○萱生由章云長野ヨリ村主須久利 風土記公穀三百四乙部ニ至ルヲ建部郷ト云トイヘリ 十三束三畝七字五毛田假粟百九十三丸六園田村主神社圭田二十七丸六字三毛田稚足彦天皇六年二月所祭大山祇命也○神風抄村主郷○勢陽雜記今も村主村あり○節用集主 内田宇知多 風土記公穀三百六十束假粟百九十村に作るハ誤なり

英田阿加多 内宮儀式帳 跡部阿止倍 勢陽雜記安濃郡長屋奈加也 抄長屋御蘭三段○勢陽雜記 石田伊波多 神宮諸雜事記石田山○神風抄安西記長谷村といふあり 郡岩田御厨○應仁記岩田ノ圓明寺

○今モ岩 驛家 貯縣加多々々 今片田郷といへる是なり 田村アリ 活本貯作片

壹志郡

八太鉢多 神名式波多神社○萬葉集二見波多横山巖作歌河上乃湯津蘭○上田百樹云今八太村アリ或書波多トモ書リ○菅笠日記三渡より二里といふに八太といふ驛あり八太河是も板橋なり云云田尻村といふ所よりやうゝ山路にかゝりて谷戸大仰なんといふ里を過もく云云大のき川大きな川なり雲出川の川上とぞいふ川邊をのぼりゆくあたりのけしさいとよし大きないはほせも山にも道のほとりにも川の中にもいとおほくて所々に岩淵なぞのあるを見くとあがたるいとおそろしうの吹刀自らたよめりしも此わたりならん

太村あり又八田 日置比於木 勢陽雜記日置村あり○上田百樹云戸木
村といふもあり 大小兩村あり○和訓栞登志郡に日置村
ありひおきと唱ふ戸木村より分れたる村なれば戸木も 島拔之末沼
元ハ日置の義也○京城萬壽禪寺記勢州木造庄日置庄
木 上田百樹云今嶋拔村あり或書ニ島貫トモ書リ 民太三乃多 松坂の
今雲出郷中ニ屬セリ○神鳳抄一志郡嶋拔御厨
濃田村とて有是也○神名式敏太 神戸云云彼時壹志縣造等遠祖云云
神社旁訓トシタとあるハ非なり 神戸云云彼時壹志縣造等遠祖云云
即神御田並神戸進支云云又壹志神戸六東○神宮雜 須可須加 神名式
例集伊勢國百五十二戸六處のうち壹志神戸廿八戸 須可須加 須加神
社○難太平記伊勢ノ國ニ蘇我ト云所ノ領家モ基氏ノ妹婿トカヤ聞
及シ也○勢陽雜記須賀村ありて松坂より乾行程二里といへり○應
仁記須可ノ積善寺○行囊抄南高岡村ヲ出テ神戸前迄ハ暖路ナリ須
賀村ハ暖路ヨリ左ニ見ニ此村根芹ノ名物ナリ○上田百樹云今須可
村有按當國ニ須可ト云處所々々在テ凡テ海邊ニアル洲處ノ義ナラ
ソ此須可郷ハ今海邊ニハアラザレドモ古ハ此郷ノ邊迄モ海ナリ
地勢ナリ○司中公文抄阿射賀四ヶ所中村須可村蘇原 小川手加波 神
村飽瀬村○肥前風土記彼杵郡周賀もこれに同じき歟

式小川神社○勢陽雜記小川村○菅笠日記三渡の橋のもとより左に
わかれて云津屋庄といふ里を過てはる、と遠き野原をわくれ
は小川村にいたる○上田百樹云今小川村アリ矢下上 吳部久禮倍
ノ小川ト云又阿坂ノ觀音ノ山號ヲ小川山ト云由也
宍野多木乃 古事記自當藝野上差少幸行固甚疲衝御杖稍歩故名其地
謂杖衝坂也○勢陽雜記瀧野村ありまた高野村といふも
あり○盛衰記伊勢國瀧野軍事元曆元年九郎判官義經ハ和泉守平信
兼カ伊勢國瀧野ト云所ニ城郭ヲ構テ西海ノ平家ニ同意スト聞テ軍
兵ヲ指遣シテ是ヲ責○勢州四家記先祖北畠權大納言源親房卿後醍
醐天皇に味方せられしより勢州南方並和州宇陀郡を守護し一志郡
多藝に屋形あり代々多藝の御所といへり○上田百樹云今瀧川村あ
り或瀧之川村トモ書ソ又飯高郡川俣谷瀧野郷瀧野村あり隣郡ナレ
ハ此地ナルベカラソカ○餘戸
神鳳抄飯高郡瀧野御厨

飯野郡

乳熊知久末 勢陽雜記神生山乳熊寺松坂より異行程二里中萬村に有
云云和名抄に乳熊とある此所なり當時民村なりけるに

や今も中萬村の上のはつれに矮屋二三宇三間四面の観音堂有之○
年中行事油三升中萬府○神鳳抄飯野郡中萬郷又中萬神田○伊藤氏
勢遊志休于安樂寺經山添村尋飯野高宮登神山云遊一乘寺尋仁木
義長故壘左中萬村造銷路村○司中公文抄中萬郷阿波會村伊蘇村
兄國江久爾 勢陽雜記多氣郡の内に兄國村弟國村とてあるの後に多
氣郡に屬したるにて即ち此處なるべし○神鳳抄飯野郡
兄國郷○高田記大黒田 東鑑文治三年三月黒田○神鳳抄飯野郡麻五
領郡司兄國宿禰 黒田 斤黒田郷○上田百樹云今大黒田小黒田兩村
アリ飯高郡 長田奈加多 東鑑文治三年三月長田○神鳳抄飯野郡長田
ニ屬セリ 田の社といふ神社も有よし見えたれは長田を誤りて唱へたるおと
明けし麻績機殿の飯高の郡井口村にあり松坂より東行程二里俗上
館村と云外宮に屬す神服機殿の大河内村に有下館村といふ神名秘
書にハ飯高郡井手の里と有此井口の井手の里なるべし式に多氣郡
に入と有其時まてハ長田郷かまた岸村に有し時の麻績機殿なるべ
し其後白河天皇御宇承暦元年十一月十二日に宣旨有て麻績機殿を
井手の郷に移して十二月六日庚子に柱を建となり此所に移し奉て
五百七十年に成侍るか此社にて糸をこしらへ侍る故に麻績と云又

此邊六十六郷を御糸といふ下館村にて織侍る故に神服と云也儀式
帳云此機殿昔纏向珠城朝廷倭姫皇女傳奉大神齋服飯野高宮于時機
殿立長田郷此處立社號麻績社又川崎社とも云是大神靈也于後機殿
遷於岸村此處立社稱岸社云云垂仁の初麻績機殿ハ長田郷に定め神
服機殿ハ宇治に建給ひしを兩機殿を流 漕代古以之呂 漕を古以と訓
田の郷岸村に移し岸社と申奉りしと也 神戶 内宮儀式帳飯野郡高宮坐支彼時左奈乃縣造御代宿禰云云即
也 神戶 御神田並神戶進支云云又飯野郡神戶十一束○三代實録元慶
七年十月伊勢國飯野郡神戶百姓秦貞成向官慈訴太神宮司大中臣貞
世犯用神物○上田百樹云今モ大津垣鼻上川下村久保驛部田等皆神
戶郷中ナリ今飯高郡ニ屬セ
リ此處飯野飯高ノ郡郷ナリ

飯高郡

上枚加無都比良 下枚 古本今昔物語語平 丹生介布 神名式丹生神社又
別記丹生○勢陽雜記飯高郡に丹生村 郷とある是也 丹生中神社○應仁
あり松坂より未方行程四里天宮是也 英太阿加多 内宮儀式帳飯高縣
造○神宮雜例集伊

勢國飯高郡英太神田又英太御厨○神風抄飯高郡英太立野多千乃神
御厨又英田神田又縣御園トモ見ユ○今モ阿形村アリ
式立野神社○神風抄飯高郡立野○舊事紀物部建彦連立野 驛家上田
連公等祖○勢陽雜記立野村あり松坂より坤行程一里半 驛家百樹
云今神戶郷中ニ驛部田村アリコレヤ○兵部式飯高驛○神宮雜事
記長元六年十一月臨時勅使參宮云云御馬從山中俄病腦シテ僅飯高
郡驛家押付○勢陽雜記 神戶 神宮雜例集伊勢國百五十二戸飯高神戶
驛部田村といふあり 三十六戸○今按太神宮式六處神戶とあ
りて此抄にてハ已上五處なれハ猶ほかに
もあるへし○倭姫世記にいへる神戶是か

多氣郡

相可阿布加 神名式相可神社又相鹿牟山神社○神風抄飯高郡相可郷
里宿中入口ニ石山有○伊藤氏勢遊志十六日發射和至相可兩村邑戶
殷實瓦屋參差櫛田川流于其間山明水媚殆有衡山石田畫憲○今按文
德實錄齊衡二年正月伊勢國阿耶賀神とありて耶の傍に射一本とあ
るハ是多氣郡相鹿の神にやあらん又古語拾遺凡奉造神殿者皆須依

神代之職齋部官率御木鹿香二郷齋氏伐以齋斧堀以齋鉏然後工夫下
手云云この御木沼木鹿香この沼木相可の紛ひたるにハあらざる
か有貳字爾 神名式字爾櫻神社○神宮雜例集下有爾村字爾神社 多氣
多介 續紀文武二年十二月遷多氣太神宮于度合郡○神名式竹神社○
川ヲ稻木川トモ云之○神宮 麻績手字多 今按訓なる多字ハ美の誤也
雜例集齋宮寮在多氣郡竹郷 麻績手字多 ○神名式麻績神社○和訓栞
麻績神社ハ伊勢多氣郡にありて俗に上館といふ井口村にあり○機
殿儀式帳太神御靈稱麻績屋姫神といふ是也○古語拾遺長白羽神伊
勢國麻績祖今俗衣服謂之白羽此緣也○三代實錄貞觀五年八月伊勢
國多氣郡百姓麻績部患麻呂麻績部廣永等十六人復本姓中麻績公患
麻呂等自歎曰豊城入彦命之後○太神宮例文麻績○節 三宅美也介
用集鳥呼浦と書てチミノウラと訓り又小忌浦トモ有 中
行事油二升三宅郷○神風 流田奈加禮多 神名式流田神社流田上神社
抄多氣郡三宅郷承久注進 流田奈加禮多 ○神風抄多氣郡流田郷承久
注進○神宮雜例集神服機 櫛田久之多 神名式櫛田槻本神社○節用集
殿在多氣郡流田郷服村

其地乎櫛田止號給櫛田社定賜支○神風抄櫛山鄉又飯野郡櫛田河原御園○東鑑文治三年五月伊勢國齋宮寮田櫛田鄉○太神宮式凡齋内親王參入之日飯野郡櫛田河浮橋者太神宮司專當其事令神郡人臨時勞作○今接勢陽雜記飯野郡櫛田村を出せり今ハ飯野郡に屬たるか又櫛田村遷幸記を引ていふ垂仁天皇廿五年從飯野高宮幸行倭姬命御櫛落し給其所乎櫛田と號給ひ櫛田の社定賜ふ云式にも櫛田神社と云有其在所あれとも社もなく絶うせて知人なし月もとの社と云ハ小き社あり是なん式に櫛田槻本神社といへるならん

度會郡

宇治^{ウヂ}神祇式太神宮在度會郡宇治鄉五十鈴河上○神風抄度會郡宇治鄉○年中行事宇治鄉北谷又宇治河原又宇治田邊兩所御常供田○神宮雜事記長曆三年二月太神宮禰宜等上京了云々抑神宮所十三箇條也云々宇治沼木兩鄉浪人雜事可致免除事○神社啓蒙與玉社在伊勢國度會郡宇治鄉内宮酒殿邊無神殿猿田彦命一坐宇治土公祖神○元々集宇治鄉下松下村○風土記宇治村五十鈴河上造作宮社奉太神是日以宇治鄉爲内鄉也今以宇治二字爲鄉名○勢州古今名所集宇治郷にある河なれハ宇治川といふ也水上ハ五十鈴河流の末ハ御裳

濯川五十鈴御宮所より二見の浦の入江までハ二里餘りあり其所々に宇ハ有といへどもすべて是を宇治と云なり 田部多乃倍 神名式田乃家神社○神風抄度會郡二段瀧原宮神田在田邊郷○年中行事田邊御神田又田邊郷神田○元々集田邊郷蚊野村原村○今接景行天皇の御時諸國に田部と屯倉とを興し給へり是より起れる名なり○上田百樹云今モ田邊上下アリ田部ハモト清音ニ呼シコヤ今ヲヌイ又ヲノエト云 城田木多 神風抄度會郡外城田郷内城田郷○或書ニ田ノ井トモ書リ 五位下津島朝臣小松件小松以去十五年正月廿三日度會郡城田郷湯字石鴨村新築園池一處既畢依件成功叙從五位下之後拜任宮司也 湯田由多 神名式湯田神社○和訓栞いさゆた野の稱遺れりゆハいひの反齋田の義なり○神風抄度會郡湯田郷又湯田神田二丁餘○神宮雜例集桓武天皇延曆十六年八月三日官符移立離宮院於度會郡湯田郷又湯田郷字羽西村なとあり○二十二社注式内宮所攝廿四座神名湯田社○行齋抄明野ノ茶店ノ南ノ方ニ湯田村ト云アリ村ヨリ北ヲサシテ湯田野ト云 伊蘇以會 神名式磯神事伊蘇御厨○司中公文抄伊蘇郷 高田 神風抄度會 箕曲美乃和 大和物内小川村○神風抄度會郡伊蘇郷

將の御息子在次君云々とのわのさといふうまやにていつはと
わかねとたえて秋のよろ身のわひしりまさりける○神風抄
度會郡笑曲郷○二 沼木奴木 止由氣宮儀式帳等由氣太神宮院事今稱
所太神宮例文笑曲 度會宮在度會郡沼木郷山田原村○塵添
揆囊抄度會郡沼木郷山田原○神風抄度會郡沼木郷○故老口實傳沼
木郷○神宮雜例集延曆十六年八月官符度會郡沼木郷高川原○太神
宮參詣記沼木○神社啓蒙外宮者在伊勢國度會郡沼木郷山田原也所
祭之神云豐受皇太神宮相殿神三座東天津彦彦火瓊杵尊西天兒屋
根命天 繼橋都木波之 節用集繼橋在勢州山田○神風抄度會郡繼橋郷
太玉命 繼橋都木波之 ○故老口實傳沼木繼橋○神宮雜事記繼橋郷美
乃々村○太神宮儀式帳繼橋郷河原村○勢州古今名 二見布多美 齋宮
所築度會郡繼橋郷豐宮崎文庫者慶安元年所創立也 一見布多美 齋宮
凡齋王到國之日取度會二見郷磯部氏童男卜為戶座其炬火取當郡童
女卜用但遺喪及長大即替之○神風抄度會郡二見郷○神宮雜例集二
見郷鎮地祭物鹽三斤○坂土佛太神宮參詣記垂仁天皇の御娘倭姫の
皇女神鏡をいたゝき奉りて御鎮座あるべき所と御尋あり伊勢の海
つらゝ歴覽あきたらすおぼしめさるゝ海ありて二度御覽ありし故
に二見の浦となつて○遷宮物語宇治郷二見郷伊介郷此三郷合せて

いまの八郷となる○勢州古今名所集二見郷千三百石の所も武家の
押領たりしを寛永の頃返し給へり○行囊抄二見里六郷アリ惣名ヲ
二見ト云昔ハ七郷有シ今ハ六郷トナル 伊氣伊介 倭姫世記其鹽淡
事ハ出口村ト云一郷絶ケルニ依テナリ 伊氣伊介 滿盜浦名手伊氣
止號其處介參相氏御饗奉手淡海子神止號氏社定給支○神宮雜例集
度會郡二宮御領伊介御厨○神風抄志摩國伊介○神領目錄伊介浮嶋
御厨○年中行事伊介浮嶋又搦六斗三升二見伊介○行囊抄伊氣浦松
下村ノ東ノ山ノ中へ入タル海邊ヲイケノ浦ト云冬月鰯魚ヲトル所
ナリ里俗イケ 驛家 後紀弘仁八年十二月修理驛家一處在度會郡○兵
スノ浦ト云 驛家 部式度會驛○主稅式凡伊勢國度會郡驛馬有死損
者 陽田比奈多 内外兩宮兵亂記陽田○神風抄度會郡陽田郷○今接陽
ノ字ハ日乃方の力の約なるゆゑに用ひたるもの也

志摩之萬國 式 名義考志摩風土記志摩為伊勢嶋之憲也放地出海中
下 之島也後為國名この國體によりて號けたるなるべ
し此國答志崎の海中にさし出て三河國いらこり嶋と對ひ合ひたれ
の島の國ともいふべきさま也○和訓栞島之義也續後紀伊勢答志郡

と見えたりよて伊勢嶋なといへり或ハ伊勢三河の中間にありしか
海の爲に淪没せられて後伊勢の東邊を割て志摩國とすといへるも
地形と見察するにさもありぬべし昨乘の邊伊雜浦に數千尋の海底
に鳥居のありし物語も證とするにたれり○國造本紀嶋津國造○倭
姫世記嶋國○神風抄志摩國道後ト有ハ英 國府在英虞郡行程上六
處郡ノ方ヲサスナラム國ノ奥方ヲ云也

日下三日 主計式 管二 田百二十四町九十四歩粒惣千七百斛正叔千
行程同

二百石救急料五百石 拾芥抄田四千九百十七町○和訓栞本稻何はと
雜稻何はと見え諸國ハ正稅公廩各別にす

志摩國にハ田何はと稔何はと正勅何はと救急料何はと記せりと
あるハこゝをさせるなるべし○類聚國史聖武天皇十七年十一月制

諸國公廩志摩國壹萬東○志陽誌二郡云々巡行其五十 答志 倉志誤歟
六村則通程廿一里十八丁餘也此内所舟行十餘里程也

○續紀養老三年四月分志摩國塔志郡五郷置佐藝郡この郡さたかな
らす可考○東鑑文治六年四月志摩國答志嶋淳和院○寛知集答志郡

三十六村○志陽誌答志郡東西 英虞阿吳 持統紀六年五月幸阿胡行宮
六里餘南北七里餘有三十七村

りすらん云云又網兒之山五百重かくせる佐堤乃埒○寛知集英
虞郡二十村○志陽誌英虞郡東西四里許南北二里半有十九村

答志郡

答志 萬葉集(二)劍着手節乃崎○續後紀承和七年十一月以在志摩國答
志嶋賜無位常康親王○東鑑文治六年四月答志嶋○志陽誌答志

村在蒼海之中舟行一里十五丁也○行囊抄答志嶋志摩ノ内ハレトモ
古キ歌ハ伊勢ト有といへる非なり○今按山家集伊勢のたふしと

申嶋に云云と和具上田百樹云神風抄志摩國ノ和具サテ國圖ニ答志
あるハ誤なり 和具村ノ隣ニ和具村アリ異圖ニ和久又和具浦ト書リ

此答志ノ和具ハ志陽誌ニハナシイカナル事ニカ英虞郡ノ 伊可荒木
和具トスルトキハヘダレリ何レナルカ今決シカマシ 伊可田久

守云伊ハ石の誤歟今按神風抄に伊志賀御厨とわれハ志の字を省き
たるなるへし○上田百樹云伊賀谷伊加賀池ハ在相差村ト云へり是

歟 伊椎 今按に椎ハ雜の誤か○内宮年中行事伊雜宮詔刀云志摩國答
志伊雜村乃下津石根云云此地今磯部村ト云或ハ磯邊或ハ

五十部トモ云兵部式ニ志摩國磯部トアリ今磯部七郷アリ○神名式
栗島坐伊射波神社○一宮配伊射波神社志摩國答志郡○二十二社注

式伊雜宮一座志摩國答志郡伊射波神社也○儀式帳在志摩國答志郡伊雜村太神宮相去八十三里○倭姬世記唱國伊雜方上葦原中有稻一基生本波一基爾爲豆末波千穗茂也彼稻白眞名鶴昨持廻驛家神戶乍號稱太歲神同處祝坐奉也○神鳳抄志摩國伊雜神戶東鑑文治元年十月太神宮御領伊雜神戶○今按兵部式志摩國驛馬鴨部磯部各四疋とある鴨部ハ神戶に同きハハらぬにや神宮雜例集志摩國六十六戸とある内に伊雜神戶さて上の驛家とあるも同所なるへし○台肥久壽元年五月廿三日太神宮領伊雜神戶内勝司領阿乘御厨相論事

英虞郡

甲賀カ民部省圖帳甲可或甲賀或加布可公穀二千六百七十二東假粟一千九百二十二丸貢海驛素布石穀等行程東西二十里二百步南北十九里五十步○志陽誌甲賀村○神宮雜例集志摩國甲賀村神田名錐○天武紀元年六月高市皇子自鹿深云云とあるも是なるへし志陽誌波切村此處前海波濤急切故謂波切○神鳳抄志摩國抄志摩國名切○東鑑治承五年正月志摩國菜切嶋船越御厨○年

中行事船越○志陽誌船越村○民部省圖帳船越浦公穀二千九十八東假粟千七百四十九圓位上人結夏之庵舊在于此號西行洞道浮上田百樹云道瀉の誤か○今按神鳳抄志摩國道方とあり又道行といふあり行浮言通へるこにハあらぬか今伊勢國度會郡の村名に見ゆ此邊元志摩國なり後伊勢度會郡となれり神芳草上田百樹云ハハ鳳抄にハ道後と云所もあり是も字形似たり芳草上田百樹云ハハ度會郡に方坐蒲異本に方坐庵と有同處一色南紀名勝志長島庄長島なるべし此邊も古へハ志摩國の地也一色村東一里許有長八九丁許浦後拾遺集道命法師名にたかき錦のうらを來て見れハかつかぬあまのすくなかりけり此處もとい志摩國なり今紀州に屬す河社にも後拾遺集なる道命法師の歌を擧て神武紀紀伊國荒坂津を亦名丹敷浦とあれハるまなるへしといへり節用集紀州丹敷浦とあり○神鳳抄錦御厨○山家集伊勢のへちの錦の嶋にいろわの紅葉の散けるを波にしくもとちのいろをあらふゆゑ錦の嶋といふにやあるらん○名蹟考錦浦本志摩國英虞郡にあり今ハ紀州に屬す然れとも其地を島方と稱す嶋方ハ志摩方の義なり伊勢のへちの錦の嶋此浦の嶋なるべし熊野よりハく海濱の嶋にて伊勢につハけり○行囊抄錦嶋船路ノ右ニ有前ニサキハ袖師ノ浦ト云小嶋也餘戸

神戸 止由氣太神宮儀
式帳志摩國神戸

尾張手波里國 式 今按名義ハ續紀神護景雲三年尾張國山田郡人小
治田連藥賜姓尾張宿禰神名式中嶋郡尾張大國靈

神社又山田郡尾張神社又尾張戸神社國圖山田郡小針村ありこれよ
り出たる名カ○和訓栞尾張國ハ南智多郡ノ方張出タルガ如シ○名
所方角抄美濃と尾張ハすのまたといふ大河あり川の
中程をさかひとして東尾張也○國造本紀尾張國造 國府在中島

郡行程上七日下午四日 續紀神護景雲三年九月尾張國言此國與美濃國
堺有鵜沼川今年大水其流改道毎日侵損粟栗中

嶋海部三郡百姓宅々又國府並國分二寺俱居下流若經年歲必致漂損
望請遣解工使開掘復其舊道許之○尾陽古今人物志零古司應在中嶋
郡今所謂國府松下村呼 管八 田六千八百二十町七段三百十步正公
國衙○主計式行程同

各二十萬束本稻四十七萬七千束雜稻七萬二千束 拾芥抄田萬千九百
三十町○諸國記尾

張州郡八水田壹萬千九百 海部阿末 兵部式傳馬海部五正○熱田縁起
四十丁○主稅式正公同 宮酢姬其祠在愛智郡氷上村以海

部氏爲神主海部氏は尾張氏別姓也○殘編風土記尾張國者云云海部
佩室臣討終於海部又海部郡民用富饒村竹多種出柴胡橘柚川育當販
厚朴等鮮魚繁多而膳部所知也○指掌圖海東西兩郡とせり後に分れ
たる也○名所圖會當郡ハ愛智郡の西に隣り北ハ中嶋郡を境とし西

ハ海西郡に接し南ハすへて海濱なりもと海部郡と云しを頼朝公天
下を治め給ひしふるより二郡にわかれ東の方ハ則海東郡西の方ハ
今の海西郡なり海西郡ハ南北長く東西狭くして東ハ海東に隣り北
ハ中嶋郡に接し西ハ木曾川を隔て濃州の海西郡に對し南ハ海面伊

勢に連れり天正中秀吉公一郡と二ツに分ちて川の西な 中島奈加
るを美濃の海西郡とし東を當郡と定められたりと云り 葉栗波久利 民部省
之萬 今美濃に屬すと云り○殘編風土記中嶋郡民 圖帳行
用富貴也材用不少出修竹柴胡大根胡麻等

程東西二十二里七千步○今美濃に 丹羽邇波 殘編風土
屬すと云り○殘編風土記羽栗郡 記丹波郡 春部加須我倍
今按今作春日井國圖春日井郡ト書リ上田百樹云印本神名式春部古
本日ノ字ナシ○殘編風土記春日郡如本文明兵火燒失諸本本文中

職道本 山田夜萬太 天武紀五年九月尾張山田郡○續紀神護景雲二年
亦脫簡 十二月尾張國山田郡人○今按今廢タリ國圖及村
名帳當郡ナシ村名帳春日井郡山田村天 愛智阿伊知 神代紀吾湯市村
野信景云山田郡今接春日井郡爲庄之名 ○景行紀五十一
年八月尾張國年魚市郡○萬葉集三同十三年魚道又七年魚市方盤干
にけらし智多のうらにあさこく船も沖によるみゆ○本朝文粹道場
法師傳法師者尾張國阿育郡人也とあるハ 智多 今按此郡名の參河の
育の下智を脱せるなり○靈異記阿育智郡 國碧海郡なる知立の
郷名より出て此國の郡の名にもなりたるなるへし神名式に知多郡
國圖に知多郡後紀延曆廿四年七月尾張國智多郡地十三町と見えて
萬葉集以下の古書に 知多智多ましへ書り

中島郡

美和 神名式大神神社○神名頭注大神○鹽尻大神神社中嶋郡熱田庄
宮地花池村ニ座ス俗ニ稱天神ト云○津田正生云一の宮村の西
宮の池花池神戶の枝村に宮山とある美和山の誤こゝに宮川とい
ふ川もありとれも三輪川の誤名古屋の亥子にあたりて凡四里許 神

戸 殘編風土記神戶在中嶋之北出粟麥等有神號早田宮天照太神之御
在所也○神宮雜事記尾張國中嶋郡國造進中嶋神戶○神宮雜例集
本神戶三十戶號中島神戶○神風抄及神領目錄記等ニ尾張國本神戶
ト有モ是也○國圖東神戶村此村或圖ニハ本神戶村○和訓栞本神戶
新神戶あり童謡に伊勢の神戶ハ新 拜師 國圖林野村○津田正生云今
神戶尾張の神戶ハ本神戶と云ふ 拜師 林野村あり一の宮より西少
し南にヨ 小塞手世木 續紀延曆元年十二月内掃部正外從五位下小塞
りたり 宿禰弓張言弓張等二世祖近之里庚寅歲己降因
居地名從小塞姓望請依庚午年藉既換小塞蒙賜尾張姓許之○國內神
名牒中島郡從二位小塞天神○國圖羽栗郡ニ尾關村アリ○津田正生
云今詳ならず葉栗郡に小塞あるをろれなりといふ人もあれ 三宅 宣
と郡堺にもあらずはるかに隔たりたる地なれハ取かたし 三宅 化
紀元年五月運尾張國屯倉之穀○國 苗部阿加奈倍 東大寺別當次第苗
圖三宅村アリ○津田正生云今存 部猪名兩庄永施入
學生別供○船田後記明應丙辰四月廿九日遠藤氏犬飼氏宮河氏高本
氏次之僧都遺齋藤利綱利實及和田氏軍于墨渡外山氏長山氏小藏氏
鷲見氏山田氏千石氏等軍于苗部○上田百樹云尾張本國帳中嶋郡從
三位苗部神社注云今爲濃州○津田正生云今廢れたり稻嶋村田地の

宇に存れり名古屋より京石作以之豆久利神名式石作神社○姓氏錄
街道稻羽驛の東北にあり火明命六世孫建真利根命
之後也垂仁天皇御世奉爲皇后日葉酸媛命作石棺獻之仍賜姓石作大
連公也○神遺方以之豆久須里尾張國中嶋郡石作之家方奈里○國內
神名牒從三位石作天神○本國神名帳集說中嶋郡今無石作後日野津
海東郡松葉庄石作村天神社疑此詞乎これ中嶋郡に近き地也
正生云今詳なら川崎今詳なす信濃國考へし

海部郡

新_ニ宣化紀元年蘇我大臣稻目宿禰宜遣尾張連運尾張國屯倉之穀物
部大連鹿火宜遣新家連運新家屯倉之穀○民部省圖帳海部郡
新家卿公穀一千伍佰八十三束假粟六百二十五丸貢海料驛馬以半稅
充國庸○今按名所圖會新居村に新屋天神社あり本國帳に從三位新
家天神とあり同集說に按舊事紀物部印葉連公五男竺志連公新家連
等祖云云祭神天穗日命○尾張國本貫諸姓略記新家連○本國神名帳
中島郡正三位新屋注云在江賀庄新居屋村○國圖新居屋村○尾陽雜
記海東郡新屋山法性寺ハ新谷村藥師也天皇勅願所○鹽尻桶狹間屋

形狹間よりの行程に丹家一里餘戊亥とあり是なるへし○常山記談
織田信長も所々に城をかまへ丹家にハ水野帶刀善正寺にハ佐久間
左中島命奉天照太神遷幸于美濃國伊久良河宮積四年奉齋經明四年
京之_ニ遷此郷號中嶋○民部省圖帳中嶋○國圖海東郡中嶋村アリ○鹽
尻中嶋へ廿四町餘戊亥とあるこハなるへし○津田正生云今詳なら
す津積津田正生云志摩伊福尾張國本貫諸姓略記伊福部宿禰○津
ならず○司中公文抄太神宮御領尾張國伊福部御厨云云海東郡政所
殿○神鳳抄尾張國伊福部御厨○本國神名帳尾張國伊福部正四位上
伊福神社注云伊麥村七社明神口○拾芥抄島田姓氏錄右京皇別島田
宮城部尾張美濃二國造殷富門伊福部氏也島田臣多朝臣同祖神八井
耳命之後也五世孫武伊賀前命孫仲臣子上稚足彦天皇御代尾張國嶋
出上下縣有惡神遣子上平服之復命之日賜號嶋田臣○古事記傳嶋田
臣和名抄に尾張國海部郡嶋田郷是なり神名帳同國中嶋郡太神社名
神大臨時祭式に大或作多と見え文德實錄に尾張國多天神三代實錄
に尾張國多名神なとある皆此神社比事也丹羽臣嶋田臣など多臣の
支別なれハ其祖神なるへし○鹽尻も同説なり○催馬樂櫻人嶋津田

○津田正生云今下海部日置民部省圖帳富岡明神有日置之村去村田村といふあり
比咩也○東鑑文治三年十月尾張國日置○台記久安六年件尾張國三
日置庄○津田正生云今ハキと呼へり津嶋より巳の方に當れり
刀國圖海東郡ニ物忌三宅國圖海東郡ニ八田國内神名牒從三位上
水戸村アリ
○上田百樹云國圖隣郡愛智郡
ニ八田村アリ今ハツタト云

葉栗郡

葉栗民部省圖帳葉栗郷公穀一千二百六十束假粟九百五十八丸六毛
田○津田正生云今廢れたり○今按今嶋村に遍正院といふ尼寺
あり是を葉栗臣建立河沼風土記葉栗郡川嶋社在河沼郷川島村奈良
の寺と云ひ傳へたり宮御宇聖武天皇時凡海部忍人中此神化為
白鹿時出現有詔奉齋為天社○民部省圖帳公穀一千二百六十丸
二千五百六十七束有餘假粟一千三百九十五丸大毛○民部省圖帳大
毛公穀九百六十七束有餘假粟法性寺岡殿之舊餘也故以假粟充無粟
之貢○國內神名帳從三位大等天神○式社考大毛神社在門間庄大毛

村○國圖大毛村○津田正生云今ハキと呼へり村國東有餘假粟百五十七丸有餘○國圖村
生云今ハキと呼へり村國東有餘假粟百五十七丸有餘○國圖村
久野村アリ村國野ノ義カ○津田正生云今村名に村若栗神名式若栗
久野村あり名古屋の西北五里許犬山の正西なり若栗神名式若栗
考若栗神社在上門間庄大家郷和泉村○國內神名帳從三位上若栗天
神○民部省圖帳若栗公穀○○○假粟六百三十九有餘田若栗明神田三
十有餘束充國司之受稅和銅二年所祭饒速日命也又葉栗郡極樂寺號
若栗寺寺領四十八束有餘以浦領為貢代法然上人三夏不出之繩室也
○今按此寺今名古屋にあり○尾張國古人姓名
畧記廣入姬命孝昭帝御宇葉栗郡若栗郷誕生

丹羽郡

五鬘風土記卷向珠城宮御宇天皇品津別皇子生七歲而不語皇后夢有
神告曰吾多具國之神名曰阿麻乃彌加部比女吾未得祝若為吾充
祝人皇子能言亦是壽考云云即遣覓神時建岡君到美濃國花鹿山攀賢
樹枝造綬盤曰吾綬落處必有此神綬落於此間乃識有神因豎社由社名
里後人訛言阿豆良里也○神名式阿豆良神社○國內神名帳從一稻木
位吾綬名神○式社考五鬘神社在稻置庄盤村今按五ハ吾の省字

以奈木 神名式稻木神社○尾陽雜記稻木庄○國內神名帳從三位上稻
 木村 寄上春 今詳ならず 丹羽 神名式爾波神社○國內神名帳從三位
 積 神風抄尾張國穗積○國圖穗積 大桑 神名式諸羅神社○村名帳海東郡
 位上諸桑天神○津田 下沼 今詳ならず 上沼 文和三年四月廿三日權宮
 連署ノ神願注進狀 前刀 神名式前利神社○式社考前利神社在高雄庄
 丹羽郡上沼御園 齋藤村○國圖齋藤○尾張國本貫諸姓畧記前
 利連○國內神名帳從三位前刀天神○津田 小弓 津田正生云今小弓庄と
 田正生云今齋藤村と呼わり是なるへし 小弓 津田正生云今小弓庄と
 小弓削の義か安藝 小野 國圖小野 小日 今按日ハ口の誤なり○神名式
 國賀茂郡に大弓有 小野 村あり 小日 小口神社○式社考小口神社在
 稻置庄小口村○尾陽雜記小口城在丹羽
 郡小口村○國內神名帳從三位小口天神

春部郡

池田 津田正生云 柏井 今按四戰紀聞引長入手記云春日井郡篠木柏井
 今詳ならず 柏井 一揆また柏井の郷上條村などともあれハ天
 正の頃迄ハ猶春日部につきて郷名なりし也 植安 尾張古今人物志
 松有信云今柏井ハ丹羽郡に屬て庄號となれリ 安食 畧草敷二郎重義
 安食庄司○上田百樹云雜 山村 津田正生云今廢れたり私に考るに外
 記に安食ハ今葦敷と書 山村 山牛山といへる村ありて牛山の牛ハ
 内の誤にて外山内山にある 高死 本國神名帳春日部郡從三位高園神
 今接天野信景の説も高 餘戸 社注云高田郷高田寺村白山社是也
 田寺村なりといへり

山田郡

船木 主惠 大嘗會式尾張國所造進饗已下十六種○神風抄尾張國末
 御厨○今接國圖春日井郡 末上下兩村アリ或書 山田
 庄陶 石作 神名式山田郡石作神社○本國神名帳山田郡從三位石作神
 村 社注云今愛智郡内有石作訓世佐古○式社考石作神社在山
 田庄岩 志誤 津田正生云誤ハ談の山口 本國神名帳山田郡從三位山口
 作村 誤にて志段見村なり 山口 神社注云今接愛智郡○國圖愛

智郡山口村○津田正生カヒ加世カヒ尾陽雜記風の宮 兩村布多無良十六夜日記ふたむ
 云今存れり參河堺なり 山をこえてゆくに山も野もいと遠くて日も暮はてぬはるゝと
 ふたむら山をのきすきて猶未たたる野邊の夕やみ○鴨長明道の記
 熱田をたちて濱路にたもむく程有明の月影ふくるともなし千鳥と
 きゝゝれとつれわたり云云やかて夜のうちに兩村山にかゝりて山
 中などを過し程にひむかしやうゝゝゝらみて海のれもて遙にあら
 はれわたれり波も空もひとつにて山路につゝきたるやうに見ゆ玉
 くしけふたむら山のほのゝと明ゆく末の浪路なりけり○源光行
 海道記潮見坂といふ所をのほれり云云敷歩を通してなかき道にす
 ゝめり宮道二村の山中を過て山中に堺川あり○太平記三笠城軍條
 に前陣已美濃尾張兩國着ケハ後陣ハ猶イマタ高士二村峠ニ支
 ヘヨリ○石原正明隨筆二村山の尾張なり兵部式に尾張國驛馬馬津
 新溝兩村各十疋とある兩村これなり今ハ兩説なる中に多くハ三河
 國とさためたれとまからす○津田正生云今愛智郡沓掛 餘戸 驛家
 村古昔ハ藍原沓掛の兩村をすへて兩村と呼へりとい見ゆ 神戶 驛家
 神戶カヒ止由氣太神宮儀式帳尾張國神戶○鹽尻山田庄如意村六所明
 神ハ式内大井神社也社北有大井池或曰昔此村を神戶と稱す

然るに大井社本地如意堂有し故に村號も如意と呼し云云今
 瑞應寺を如意山と號するハ又村の名によりて山號とせしか

愛智郡

中村チナカ今接今上中村中中村下中村ありといへり○鹽尻桶狭間村北屋
 形狭間よりの行程に中村へ一里半戌亥とあり○名所圖會に載
 たる文和三年四月廿三日熱田御神領目錄に愛智郡上中村○豐鑑羽
 柴筑前守豊臣秀吉天文六年丁酉に生れ後にハ關白になり昇給ふハ
 尾張國愛智郡中村とかやとて熱田の宮よりハ五十町許乾にて萱ふ
 きの民の屋わつか五六十ばかりやあらん郷のあやしの民の子なれ
 ハ父母の名も誰かハ去 千電チデン今接電ハ竈の誤也○神名式上知我麻神
 らん一族なともまか也 社○國內神名帳正二位千竈上名神千竈
 下名神○名所圖會上知我麻神チノ日部ヒノ今接坂本ッサへと訓り津田正生
 社市場町通傳馬町の西にあり 日部ヒノ云日置郡の二字を日部と二字に
 改められし也今日部町是なり神風抄尾張國草部御厨とあ 大毛オモ津田
 れは是もすてかたし可考○國內神名帳從一位上日置天神 大毛オモ正生
 云今熱田の少し東に大喜村あり伊藤某の説に 物部モノベ神名式物部神社
 大毛より大喜に轉したるものならんと云り 物部モノベ○國內神名帳從

封戸○尾陽雜記但馬庄○名所英比カヒ神名式阿久比神社○國內神名帳
圖會今田嶋庄と稱する地是也 英比カヒ從二位英比天神○文和三年熱田
太神宮御神領目錄智多郡英比郷○國圖英比谷十六ヶ村とあり今も
アッ比谷といふ○文永二年十二月文書尾張國英比郷小河村○尾陽
雜記智多郡英比庄小川乾坤院
又英比城或ハ坂部ともいふ

參河三加波國式續紀延曆八年四月河を川に作れり○風土記此國
上 有男川豐川矢作川之三河故名國今按日本釋名に

男川ハ太平川豐川ハ吉田川矢作川 國府在寶飯郡行程上十一日下六
ハ岡崎なり○國造本紀參河國造 國府在寶飯郡行程上十一日下六

日主計式管八 田六千八百二十町七段三百十步正公各二十萬東本稻
行程同

四十七萬七千束雜稻七萬七千束拾芥抄及字類抄田七千五碧海阿手
十四町○主稅式正公同

美 兵部式碧海傳馬五疋○續紀神賀茂 額田奴加多 河内國郷名に幡
護景雲二年九月參河國碧海郡

豆三代實錄貞觀元年幡作播○又元慶二年六月 寶飯穗○國府今按今

と唱ふれども注に穂とあれハ飯ハ飯の誤にて穂のひゝきの字をそ
へて二字にしたる也古事記美知能字志王子朝廷別王者三川之穂別
之祖國造本紀穗國造よれなり今本坂越とて御油より左の方へ別街
道あり荒井今切の海上を渡り行て陸路を行遠江濱松の東へ出る道
なりまた本宮山砥鹿神社ハ吉田より龍造三里山路五十丁上りて峯
の社頭なり本宮に嶽といふこれらみな本坂本宮にて穂より轉せし
名なり○和訓栞もとの、原長明か道の記に見ゆ三州也寶飯の郡よ
り轉せし名にて今も本野村本坂の名ありとか明神の本宮山も同し
ことなるへし○風土記東限寒陝川 設樂志太良 民部式標注延喜三年
西限有岡山南限寶飯北限市師浦 八月十三日割寶飯郡
置設八名也名 風土記東限美和川西限鳥取山南限波多 渥美阿豆美三
樂郡 八名也名 湊北限有玉岡○箱根山縁起三州楊那郡 渥美阿豆美三
實錄貞觀二年八月參河國獻銅鐸高三尺四寸徑一尺四寸渥美郡村松
山中獲之或云是阿育王之寶鐸也○東鑑正治元年三月參河國飽海

碧海郡

智立チリ今按傍訓にチヲナとあるハ訛にて知里布なり但かく唱へ誤れ
 るハ乘稷錄に三州池鯉鮒ハ古尾州の地なるにや池鯉鮒社鱒口
 の銘に尾張國智多郡智立神社とあるよし是よりたこれるものなり
 又神名式智立神社驛の西の入口にあり文德實錄仁壽元年十月加從
 五位上三代實錄貞觀六年二月授正五位下同十二年八月授從四位上
 所祭尊不合尊○鹽尻三河國神名帳に正一位池鯉鮒大明神○松井河
 樂東行日記池鯉鮒里有神社池鯉鮒甚多因名此驛といへるハ字に
 なつめる説なり○源光行海道記三河國にいたりぬ雉鯉鮒の馬場を
 過て數里の野原のはしを名つけて八橋といふ○諸國廢城考池鯉鮒
 城永錄三年五月今川義元桶峽ニ於テ織田信長カタメニ討レシカハ
 此城遂ニ藥女チメメ今按神名式精目神社國內神名帳碧海郡正四位下
 明退ケリチメメ精目明神とあるハもしハ此ハにハあらざるか
 今按鹽尻十六夜日記かたうといふ所にとまりぬとあるハ今の
 小坂井村なり小坂井ハ刑部の轉なり國內神名帳の從五位上酒井天
 神もこゝなるへし二葉松に西堺村東堺村これハこの所のことなり○
 諸國廢城考小坂井城永錄五年六月神祖吉田城を攻給ふ時此城を築
 き兵を置て守らしめ 依綱與佐美 鷲取和之止利
 牛窪の援路を塞く ○國內神名帳正五

位下チメメ今按長谷部を二字にしたるなり○舊事紀景行條五十狹
 取天神谷部チメメ城入彦命三河長谷部直祖○續紀神護景雲二年九月勅今
 年七月八日得參河國碧海 太市於保以知 碧海阿乎美 橫禮チメメ今按玉
 郡人長谷部文選所獻白鳥 貴切木也可爲杖と 昔見チメメ今按太神宮儀式帳壹志縣造等遠祖建皆子汝
 見ハキレト訓むハ 國名何問賜白久矣往皆鹿國止白只と有皆鹿
 ハ神名帳壹志郡阿射加なれハこゝもアサミと訓へし皆ハ字彙に音
 子口毀也とわれハアサケルの義なり類史風俗部に吉彌侯部皆子萬
 葉に服部皆子と 河内チメメ神風抄參河櫻井チメメ國內神名帳碧海郡正五位下櫻
 いふ人もあり 國河内御園 櫻井チメメ木天神○二葉松櫻井村○諸國
 廢城考櫻井城松平監物家次此城ニ居ル永祿六年門徒一揆ニ
 黨ニテ神祖ヲ拒シ七年二月遂ニ降リケルカ是年七月卒ス 大岡チメメ二
 松大チメメ上田百樹云寫國圖加茂郡ニ崩生南北兩村アリ碧海郡ニ隣
 岡村チメメ今按蘇ハ和名抄及字鏡にも阿佐彌とあれハ蘇野の義ナ
 を誤れり蘇ハ和名抄及字鏡にも阿佐彌とあれハ蘇野の義ナ
 らん本草和名に蘇野と書ていつれハ和名阿佐美と註せり 驛家チメメ和
 三才圖會驛明神在池鯉鮒社領十石
 自四月下旬至端午日於此有馬市

額田郡

新城^{ニヒキ}二葉松仁木村といふあり是なるへし○行囊抄新城自國府追分
 至于此行程五里此所風來寺路驛宿也又信濃伊那街道ヨリ檜原
 峠ヲ越參河ニ入テ十里許シヨシ
 鴨田^{カモ}二葉松郷村鴨田村○諸寺文書
 纂三州額田郡鴨田郷成道山大
 樹寺又今川義元天文十九年六月十三日三
 河國額田郡鴨田郷大樹寺之事右爲祈願寺
 付賀^カ○諸寺古文書應仁元
 年八月信濃之勢二萬餘騎欲責捕岡崎城伊田之郷迄出馬一夜半日陣
 張于時左京親忠公岡崎之軍兵五百餘騎從伊賀村東覆盆子繩手押掛
 合戰又永祿年中堺目三州尾州一戰起時家康公岡崎城主御向之時御
 旗色替故從池鯉鮒野騎馬七騎而被爲入大樹寺時矢作河滿水故大門
 之郷渡兼サセ給處鹿一疋來渡ケリ本多平八云伊賀八幡ヨリ鹿御渡
 候間無御氣遣御渡候へトテ先前へ乘込候へハ家康公モ餘ノ六騎ノ
 武者モ共ニ乘込御渡候從
 額田^{カガ} 麻津^{マツ}二葉松馬頭○荒木田久守云六
 其渡場ヲ臨ノ渡ト申候
 石 二葉松六名村といふあり石ハ名の誤ならん歟もし然らハ半
 津奈と訓へし○和漢三才圖會八幡宮在六名村社領十三石 大野

驛家 二葉松八木村といふ
ありこれなるへし

加茂郡

賀茂^{カモ} 仙隨^{センズイ} 二葉松千田 伊保^{イボ} 神名帳伊穗神社○國內神名帳正五位下
 古ハ作仙 伊保天神○二葉松上下伊保村あり○行
 囊抄伊保自平針三里尾三ノ界○和漢三才 舉母古呂毛 今按今衣の里
 圖會大好山永福寺在伊保村黃蘗寺領百石 岡崎の北にあ
 りて城下なり○鳥丸光廣卿春曙矢矧の里に立より里人にとへハ衣
 の里ハ矢矧の橋のかかりたる川につきて四里半北の山中なり○二
 葉松高橋庄或作衣○孝堯法印覽富士記二村山越侍るとてけふこゆ
 る二村山のむら紅葉また色うすし販るさにむ衣の里このあたり
 にろ侍らむ(名)にたてる旅の衣の里ならハ露分きつる袖やかさねん
 ○竹内直躬東海道記八橋より西に里村といふハむかし尾張よりの
 街道にして衣の里ハこれなるよしものにみえたり二村山も程ちか
 し○名所方角抄衣の浦尾張國に入り鳴海より五六里なり海道に
 あらず鳴海の里より藍原宿を過て田樂か窪といふ野を過
 て沓かけを下りて一里はかり東に川あり是まで尾張也 高橋多加

波之 行囊抄或記を引たるに吉山にいてぬる山田 賀爾 二葉松 信茂
今接賀禰の上信茂
は下にはあらぬか

幡豆郡

能東 今接國內神名帳に幡豆郡從四位下熊來明神とあればもしく
能東は熊來の誤にはあらぬかまた二葉松に能子村といふか
れは子の來の訓の轉にて 八田也多 二葉松 意太 磯伯之波止 節用集
能子なるもまじりかたし 矢田村 意太 磯伯之波止 磯伯之波止 磯伯之波止
國內神名帳正五 大川於保加八 大濱 本朝通紀後編信長年十四初將
位下磯伯天神 大川於保加八 大濱 兵發向三州吉良大濱放火于近
邊飯那古野大濱大濱いづれか轉したるにあらざるか○明應八年
五月三日中納言雅康卿富士歷覽記廿四日河より船にて三河へ行侍
りしに風かはりて嶋々にとまじり侍るに大濱といふ所へ船よせて
ある堂舎にまはらくやすみて○今接これらに據るに濱もしくの濱
の誤にあらぬにや行囊抄にも赤坂の西に有退分より 新島 修家
右に入細路有是の西尾吉良大濱へも出原へも行路なり

二葉松横
須賀村

寶飯郡

形原加多乃波良 神名帳形原神社○續後紀承和六年十二月參河國守
從五位下橘朝臣本繼等奏稱去年十一月三日五色雲
見寶飯郡形原郷○風土記形原郷公穀二百八十二東三毛田假粟五百
六十三丸貢松柏樟杉柴胡黃芩茯苓當飯鹿猪狐狼鵲鶴等○二葉松形
原磯○四戰紀聞長篠形 赤孫安加比古 神名式赤日子神社○風土記赤
原之松平又七郎家忠 日子神社圭田三十九東三毛田
所祭海神綿積豐玉彦神也安曇氏祝祭也天智天皇甲戌九月始奉圭田
加神禮有神家巫戸等○文德實錄仁壽元年十月赤孫神授從五位下○
三代實錄貞觀十八年六月參河國赤孫神○國內神名帳正二位赤孫大
明神○近藤芳樹云風土記赤孫郷或赤日子公穀七百六十二東三字田
假粟六百七十二丸三字田貢葡萄蘿蔔等又出桑糸とある糸の神祇令
義解に參河赤引神調糸と見えたる赤引の事なりか、れは安加比古
の安加比支 美養 行囊抄櫻町の條に或の 御津美都 神名式御津神社○
の轉なり 美養 行囊抄櫻町の條に或の 御津美都 神名式御津神社○
の轉なり

十月御津神授從五位下○國內神名帳正三位御津神○風土記御津神社主田五十六東所祭下照比咩也天武天皇四年二月始奉主田加神靈御津庄公毅四百七十二東假粟三百九十三東又御津海湊○名所圖會御油の東南三河國府の御津村にあり御津神社を今ハ船洲明神といふ

宮道美也知 東鑑建久元年十二月頼朝上洛阪路入夜令宿宮路之山中給○承久軍物語きのせいいたかし山をもわけすきてミヤチヤマヘウチカヘリレトハ川のほとりにたてたてて○海道記宮道二村の山中を除に過て山いつれも山なれども優興ハ此山につく松いつれも松なれとも木立ハ此松にとまれり○鴨長明道の記矢はきといふ所をたちて宮路山こえ過るほとに赤坂といふ宿あり○貝原氏吾嬬路記宮路山を今ハ山中とのミヤチカシ持統天皇行幸ならせ給ひて頓宮ありし所なれハ宮路山といふとなん

○光廣卿春曙宮路山の岡崎の一里ばかり右にあたりて在所あり路天神○名所方角抄宮路山に河あり北向の里なり矢矧より近し山の高からす衣の里近し二里許なり○躬恒集三河の守の馬のはなむけせしによめる名にしれへはとほからねとも宮路山これをたむけぬさにせよ君○後撰集戀君かあたり雲井にみつハ宮路山打こえ

ゆかん路もえらなく○行囊抄宮路山とは望理○二葉松森村古作望理竹大明神の山を云長澤の邊宮路の内也 望理○風土記跡王理卿今按望ヲ二字ニ誤タルナリ公毅七百六十二東三字出假粟六百九十賀三丸其貢同御津庄○行囊抄森村ハ國府ヲ出テ自海道右ニアリ

茂度津和多無都 兵部式渡津驛馬十疋○十六夜日記わたらと云宿のまへをうち過るにあるものいふをきけは此道のむかしよりよくるかたなかりし程にちかき頃俄にわたふつの今道といふかたに旅人多くかゝるわひた今ハ其宿ハ人の家 篠東之乃都加 風土記篠塚居をさへ外にのさうつすなといふなる

九十二東三毛田假粟五百六十三丸三字山貢松竹杉梅等又出桑麻綿絹等○國內神名帳從四位下篠東明神○二葉松篠東村○和漢三才圖會天王社在篠 宮島美也之末 豐川止與加波 今按吉田の西の入口に塚村社領十石

なり吉田の舊名を今橋といふこの橋によれることハ水源は信濃の山溪より滴りて長篠の裾をなかれこゝにいたりて豊河といふ○源光行海道記十日豊河を立て野くれ里くれはるハとすくれは峯野の原と云所有遠望の感心情つき難し(山のはハ露より底にうつも

れて野末の草にあくるしの、め〇名所方角抄世俗に今橋といふ宿
よりも北なり星野などいふ所に近し〇今按上の度津の條に引る鴨
長明道の記に與加波とい 雀部故々倍 國內神名帳寶饌部草部明神と
ひけるハトヨカハの略か 上野國佐伊郡 驛家
に同名あり

八名郡

多木 風土記多木郡公毅六百九十七東三毛田假粟五百八十
三九四畝田〇二葉松多米村と有ハ木を米に誤れるか 美和 風土
笑輪公毅四百八十東三字田假粟三百八十六九二畝田美和神社圭田
五十東所祭大已貴命齊明元乙卯始奉圭田加神禮有神家巫戸〇文德
實錄仁壽元年十月授參河國石經神從五位下〇今按神名式石卷神社
とあるハこの風土記なる美和神社の事にて本郡神郷村にあり吉田
より一里餘東北二川の與也と名所圖會に云り此 八名也 奈 風土記八
神郷の神字ミツと訓て美和の郷の義なるへし 名庄公毅
五百七十二東假粟四百九十三九八名神社圭田三十二東三毛田所祭
胸漢命也孝德天皇三年九月初加圭田行神禮〇二葉松八名井村とあ

る是 養父也布 二葉松 和太 二葉松 服部 波止利 風土記服部庄公毅六百
か 養父村 和太 和太村 九十二東三字田假粟五
百三十 美夫 古事記高津宮條此天皇之御世爲太子伊邪本和氣命御名
五丸 代傳云壬生部の壬生ハ書紀皇極卷に乳部此云美文とあ
るに依て美夫と訓へしさて美夫辨ハ御産部よて生坐る時の御産殿
に仕奉る諸部を云されハもと美夫辨なるを零きて美夫と云へるな
り

渥美郡

幡太 文德實錄仁壽元年十月播豆と 和太 二葉松八名郡にありて此郡
あるハ是か〇二葉松今作函 にはみへす〇今按八名渥美
隣郡なれば彼よ 渥美安久美 今按東鑑正治元年三月飽海二葉松にも
り此に入るか 飽海とあり神宮雜例集參河國四十戸本
神戸二十戸號渥美神戸新神戸十戸號飽海神戸これに據れハ所異な
り〇行囊抄吉田の驛の東のつゝきに有退分より左の衢に入れハ本
坂越の路也そこに二 高蘆多加之 今按神名式に阿志神社見え文德實
連木阿久見村とあり 錄仁壽元年十月阿志神とあるハこ

か國內神名帳にも正三位阿志大明神と云あり○神風抄内宮高足御厨十石○二葉松高足○更科日記三河國高師の山○源光行海道記高師山にかゝりぬ此林地を遙に行へ山中に堺川あり是より遠江國にうつりぬ○鴨長明道の記參河遠江のさかひにたかしの山と聞ゆるあり山中に越かゝる程谷川の流れ落て岩瀬の浪こどゝしく聞ゆ境川とそいふ(岩つたひ駒うちわたす谷川のたどもたかしの山に來にけり○春曙大岩といふ在所より高師山の左り東にあたりて松山あり○新撰歌枕遠江國高師山の左り東に被入たりまた遠江と書る本もあり依て兩國に書入侍りぬ遠江なるたかし山とよめるうへに兩國の山かどろおほゆるなといつれもたしかならぬさまにいへり然れとも六帖に高市黒人(あふまを)を遠江なるたかし山たかしやむねにもゆる思ひぬ○名所方角抄遠江國高師山南の海なり中間原なり過れぬ潮見坂なり○行囊抄高師山潮見坂の左白須賀ノ北より橋本につゝきたる松山をいふ○縣居東歸に高師の濱名郡にて白須賀と荒井との間大道より北なる山を云これらはみな遠江なる證なりされども此抄正しく參河に載たれぬ論なし○盛衰記(廿七)矢矧川合戦の條に源氏先陣の菊川後陣の橋本の宿見付國府磯部以會に着程近き高志二村の軍兵野にも山にも隙ありとも不見

倍 二葉松伊古部○今接古大壁於保加倍
の會を誤れるなるへし

設樂郡

賀茂 設樂之多良 康正二年造内裏段錢並國役引付云三河國設樂郡内設樂郷○二葉松設樂村中設樂村○四戰紀聞長

篠天正三年五月平井村八劍宮の前 黒瀬 二葉松郷 多原 神風抄田原○設樂村極樂寺山に本陣を移さる 名とあり 行囊抄八牧橋の條に自此邊右の方ろかひに田原山とゆる又田原三宅出羽守○和漢三才圖會田原至江戸七十二里餘

和名抄諸國郡考卷四終

